

平成27年9月1日

立正大学地球環境科学部環境システム学科

立正大学大学院地球環境科学研究科環境システム学専攻

環境気象学分野

立正大学環境気象学分野助教に鈴木パーカー明日香博士が就任

～観測、理論およびモデル計算を視野に入れて「大気環境モデリング研究室」を主宰～

公立鳥取環境大学へ講師として転出した重田祥範博士の後任として、立正大学地球環境科学部環境システム学科環境気象学分野助教に、新たに鈴木パーカー明日香（すずき・ぱーかー・あすか）博士が平成27年9月1日付けで着任した。

鈴木パーカー博士は、千葉県出身であるが、高校3年生の秋に交換留学生として渡米し、高校卒業後もアメリカの大学・大学院に進学し、平成23年8月にジョージア工科大学大学院理学研究科一貫制博士課程を修了してPh.D.の学位を取得した。学位請求論文タイトルは『An assessment of uncertainties and limitations in simulating tropical cyclone climatology and future changes』であり、熱帯低気圧研究を専門とする新進気鋭の研究者である。上記学位請求論文は世界的出版社であるSpringerが主宰して、広く世界から自然科学横断的に最も優秀な学位論文を選出するSpringer Thesis Awardを受賞し、出版されている ([Suzuki-Parker, A., 2012](#))。学位取得まではジョージア工科大学大学院に在籍するとともに、学生研究員としてアメリカ大気研究センター (NCAR) に勤務していたが、学位取得直後の平成23年9月に帰国して筑波大学研究員に着任し今日に至っていた。

鈴木パーカー博士は、地球規模モデルによる計算結果に領域気象モデルを適用するダウンスケーリングを用いる研究手法を得意としているが、帰国後その適用対象が熱帯低気圧より小規模な都市気候現象にまで拡張されるとともに、その結果の人間生活への影響にも興味を及び生気象学的研究にも着手するに至っている。

鈴木パーカー博士は、立正大学着任後は「大気環境モデリング研究室」を主宰し、従来の研究活動を



鈴木パーカー明日香助教近影

継続するとともに、帰国後フィールド調査の観点を重視しつつ着手した都市気候学や生気象学的研究における新たなモデル構築も目指す。また、昨年度末に立正大学環境気象学分野に導入されて運用開始されたばかりの可搬型ドップラーライダーのデータ集積・解析システム構築ならびにその活用への貢献も期待されている。

鈴木パーカー助教の着任により、立正大学環境気象学分野はスタッフが1名増えて教授2名、准教授1名、助教1名の4名体制となり、昨年度末の状態に復することとなった。これにより環境気象学分野のみならず、環境システム学科全体としても、教育・研究体制が強化され、教育・研究活動が活発化することが期待される。

背景

鈴木パーカー助教が所属する立正大学地球環境科学部環境システム学科環境気象学分野は、個々の教員の教育・研究活動とともに、熊谷～高崎・前橋にかけた関東平野北西部猛暑の発生メカニズム解明を目的とした観測的研究やコンピュータシミュレーション解析研究を推進している。ヒートアイランド等の地表面熱収支の差に起因する比較的小規模な現象を専門とする中川清隆教授と、組織的な積乱雲による中規模の現象を専門とする吉崎正憲教授、およびロスビー波砕波等の大規模な現象を専門とする渡来靖准教授に、新たにメソ循環系ダウンスケーリングを専門とする鈴木パーカー明日香助教が加わったことにより、立正大学地球環境科学部環境システム学科環境気象学分野は再びバランスよく各分野の研究者4名が揃った私立大学としては屈指の気象教育機関となった。

立正大学地球環境科学部環境システム学科の卒業要件総単位数は126単位だが、環境気象学分野で卒業論文を執筆して卒業する際における気象学関連のカリキュラムにおける必修科目および選択必須科目は以下の通りであり、卒業までの修得単位数は最低30単位、最大40単位に及ぶ。

学部1年必修科目

気象と水の科学 (2単位)

環境気象学概論 (2単位)

環境調査の基礎および実習 (2単位)

専門科目A群 (学部2年8単位必修)

気候・気象学 (2単位)

総観気象学 (2単位)

大気大循環論 (2単位)

環境気象学実習 (2単位)

専門科目B群 (学部2～4年6単位選択必修、それ以上の単位もすべて卒業要件単位)

気候変動論 (2単位)

微気象学 (2単位)

大気環境モニタリング (2単位)

大気環境シミュレーション (2 単位)

温暖化と酸性雨 (2 単位)

都市大気環境 (2 単位)

——以下 2 科目は気象分野選択必修科目ではないが、気象分野教員が担当——

環境流体力学 (2 単位)

シミュレーション技術 (2 単位)

学部 3 年必修科目

セミナーの基礎 (2 単位)

セミナー (4 単位)

学部 4 年必修科目

卒業研究指導 (卒業論文含む) (4 単位)

鈴木パーカー助教は、上記の授業科目のうち環境調査の基礎および実習 (2 単位) および環境気象学実習 (2 単位) を担当するとともに、物理学実験 (2 単位)、地学実験 (2 単位)、フィールドワーク (2 単位) および海外における環境保全活動実験 (2 単位) も担当することとなる。